

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL)
テーマ提案（学生募集内容） / Project Proposal

テーマ名称 Project name	老いを活きる Productive aging: Approach from psychological and engineering perspectives
実施責任者 Instructors	教育学研究科教育科学専攻 特定准教授 高橋雄介 デザイン学ユニット 特定講師 北雄介
実施協力者 Collaborators	国立長寿医療研究センター 研究員 西田裕紀子 三菱電機株式会社先端総合研究所 (交渉中)
テーマの背景 Background	<p>我が国の高齢化は世界最速のスピードで進行中である。現在の我が国の社会・制度では 65 歳をもってほぼ一律的に社会から“除外”され、高齢者として扱われる。しかしながら、高度に医療が発達した現代においては、その後の余生は平均的に 2-3 割残っている。平均余命の 2-3 割は 15-20 年間くらいに相当するので、人間がもう一度生を受けて成人するくらいまでの期間が定年退職後にもまだ待ち受けているということに他ならず、この 15-20 年をいかにして生きる/活きるのかという問題はいままさに現代社会に実在する大きな宿題のひとつである。</p> <p>本演習では、高齢期の生活に着目しつつ、高齢者がいかにして社会を生きて/生きていくのかを、心理学と工学の観点から議論し、考察していきたい。</p>
実習の概要 Overview	<p>本演習は、老いをテーマにして、心理学と工学の観点から議論し、最終的にはそれらを統合的に考察したうえで、社会的な課題の解決のための糸口を発見することが目標である。具体的には、生体情報センシングの技術を活用して高齢者の行動の特徴を記述して、高齢期になるとどのような心理・社会・認知的な機能に関する変化が見られるのかを考え、個人差の大きい加齢の動態を把握して、極端な機能低下の予防のための示唆を得る。本実習はそれぞれの専門分野の特徴を活かした着眼が可能であり、問題解決のための議論の幅を広げるためにできる限り多くの分野からの学生の参加が期待される。</p> <p>In this course, we will be intensely focused on productive aging. We are going to discuss comprehensively from two perspectives: psychology and engineering, and to find a toehold to address a challenge from the super-graying society. The outline of this course is as follows. First, students describe the behavioral characteristics of the older people, utilizing biological information sensing technique. Second, students discuss how the older people change in terms of psychological, social, and cognitive functioning, and get several implications for the prevention of extreme functional deteriorations after capturing the dynamics of aging with a wide inter-individual variability. This course focuses on making full use of the characteristics of each background of students. In order to expand the range of discussion for problem finding and problem solving, the instructors expect and encourage student participation from as many research backgrounds as possible.</p>
実施計画、実施場所 Schedule, location	吉田キャンパス。詳細は実施計画を参照。
履修条件 Conditions for participation	特になし。

募集人数 / Number of participants	3 名以上, 8 名以下
1 次募集締切 Application deadline	10 月 7 日 (金)
応募資格 Intended participants	デザイン学履修者。デザイン学履修者以外でも, 意欲ある大学院生, 研究者は応募可能。但し, 応募多数の場合にはデザイン学履修者を優先する。
応募方法 How to apply	デザイン学公式 Web の FBL/PBL のページ (下記) から参加申込を行うこと。 http://www.design.kyoto-u.ac.jp/activities/fbl_pbl/
参加者の決定 Decision of participants	10 月 13 日 (木) までにメールで参加の可否を通知。 ※1 次募集で参加不可となった者を主な対象として 2 次募集を行う (10 月 14 日～18 日)。参加者枠に余裕のあるテーマに応募可能。(原則として先着順)
問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法 Design theories and methods for framing and solving problems	心理学的な研究法(実験法・調査法等), 統計分析。生体情報センシング技術の理解と活用。
理論や手法の学習方法 How to study theories and methods	心理学(一般/研究法)に関する参考図書 <ul style="list-style-type: none"> • 南風原朝和・下山晴彦・市川伸一『心理学研究法入門—調査・実験から実践まで』(東京大学出版会) • 今井久登・工藤恵理子・石垣琢磨・平林秀美『心理学をつかむ』(有斐閣) • 佐藤眞一・高山緑・増本康平『老いのこころ—加齢と成熟の発達心理学』(有斐閣アルマ) 心理統計学に関する参考図書 <ul style="list-style-type: none"> • 南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣アルマ)
成果の公開方法 Publication of the results	実習中にテーマの内容・検討状況・結果や考察・それらから導かれる提案内容などを含むポスター, Web サイト, 報告書などを作成する。それらはデザイン学の Web サイト上で公開される。
成績評価方法 Evaluation	出席等 30%, 最終課題 30%, 活動状況 (理論や手法の修得状況) 40%をベースにして総合的に判断する。
特記事項 Special remarks	期末課題は, 各人が個別に作成のうえ提出すること。期末課題は, 各テーマに沿って, 問題と目的・方法・結果・考察という一般的なレポートの形式を採用し, 1 ページ目に A4 判 1 枚以内で要旨を記したうえで, 本文は 5～10 枚程度で記述すること。また, テーマに関する質問があればメールで受け付ける。宛先: 教育学研究科・高橋雄介 [takahashi.yusuke.3n@kyoto-u.ac.jp]

実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
			※初回は10月20日(木)以降としてください。
1-2	10月25日(火) (調整可能!)	吉田キャンパス 総合研究2号館	テーマワーク 1: 高齢者の特徴に関する調査をデザインする ・オンライン調査を設計する
3-6	11月15日(火) (調整可能!)	吉田キャンパス 総合研究2号館	テーマワーク 2: 生体情報センシング技術を用いて老化の指標を考える(三菱電機株式会社[交渉中]) ・質問紙や問診だけでは測定できない老化の程度をとらえるための試みを議論する
7-10	12月13日(火) (調整可能!)	吉田キャンパス 総合研究2号館	テーマワーク 3: 高齢者データを分析する(国立長寿医療研究センター) ・我が国の高齢者を対象とした縦断データの紹介と実際のデータ解析を通じた加齢変化の動態把握
10-13	1月17日(火) (調整可能!)	吉田キャンパス 総合研究2号館	テーマワーク 4: ・オンラインデータの分析 ・テーマワーク 2 と 3 を統合した議論とアイデアの創出
14-15	1月31日(火) (調整可能!)	吉田キャンパス 総合研究2号館	最終報告会: 実験・調査結果の個人報告と議論